

ことぶき薬局 055(977)6024 FAX055(977)0890 たまち薬局 054(251)1678 FAX054(251)1685
ひまわり薬局 053(463)4312 FAX055(460)4612 みかん薬局 053(584)2230 FAX053(584)2240

新年、明けまして おめでとございます

昨年は今までに増して一段と医療介護制度の改悪が続き、いまや日本の医療・介護は崩壊現象が始まっています。

私たちの身の回りでも、保険証が無く病院にかかれないうまくなられたインスリン治療の方、無保険で高血圧が心配だが医者にはかかれないうまくなられたため献血の時に血圧を注意していた方など、医療崩壊・医療介護難民の事例・悲鳴の声が毎日のように聞かれます。

先の糖尿病で亡くなられた方は、中断されるまで薬局には何もおっしゃらず 5000 円ほどを支払われて、毎月きちんとかかかれていました。その患者様に何も援助できなかったことがたいへん悔やまれました。その後、インスリンをお使いの患者様にアンケートをとらせていただきましたが、7割の方が治療費に苦勞なさりインスリンの公費負担を望まれていました。

薬局としても、これからはこのような患者様のご意見を市・県・国に大いに上げていこうと思います。

また、以前からずっと続けているジェネリック（後発）医薬品の使用を更に進め、皆さんの負担が少しでも減りかかりやすくするよう努めます。4月には、処方箋様式の変更もあり、皆さんがジェネリック医薬品を使用しやすいシステムとなるようです。

もう、黙っている時ではありません。

皆さんと私たちができることを協力して、大きな声にしていきましょう。

ジェネリック医薬品を大いに使用し、皆さんの負担も下げ、国の医療費も下げましょう。

日本の医療介護崩壊を止め、再生に向かうため、声をあげ、行動をしていきましょう。

周りの方で、医療の実態をあまりご存じ無い方に、お話ししてください。

署名などさまざまな行動に、ご協力をお願いします。

私たち健康企画の職員は、いっそう皆さんの声に耳を傾け真摯に学んで、皆さんのお役に立てるようがんばります。



(有) 静岡健康企画 代表取締役 吉岡優子

薬害肝炎訴訟についてご存知ですか？

1964年に、日本で初めて、血液製剤のフィブリノゲン製剤の製造・販売が、1972年には、第9因子製剤（血液凝固に関わる血液成分）の製造・販売が開始されました。

これらの血液製剤は止血剤として使用され、とりわけフィブリノゲン製剤は、出産時の出血時に、止血目的で大量に使用されました。

しかし、これらの血液製剤にはC型肝炎ウイルスが混入しており、その結果、多くの母親や手術を受けた方々の中から、C型肝炎の感染者が出てしまいました。

1960年代から濃縮血液凝固製剤（2万人以上もの提供者の血液から作られ、その中に一人でも肝炎ウイルス保持者がいる場合、その製剤すべてが汚染されてしまう危険性の高い血液製剤）は、肝炎ウイルスに汚染されている可能性が高いことが示唆されていましたが、国や製薬会社はその危険性を警告することなく血液凝固因子製剤を製造・販売していました。また、止血剤としての効果は明らかではありませんでした。適応症を先天的な疾患に限定していれば、被害は最小限に食い止める事ができたでしょう。

2002年10月21日、損害賠償を求めて大阪、東京地裁で、その後、名古屋、福岡、仙台で提訴しました。

今年9月までに出そろった5地裁の判決では、仙台を除く4地裁が国の責任を認めました。感染拡大を防ぐために国が対策を講じる機会があったと指摘しています。

11月7日の薬害肝炎大阪訴訟の控訴審では、迅速かつ適切に解決するためには和解による解決が望ましいと、原告の患者と被告の国と製薬会社に和解を勧告しました。しかし12月13日に大阪高裁から出された和解案は、国の責任について今まで出されていた判決よりもより狭く限定しています。これは投与時期、投与薬剤で線引きをしない薬害肝炎患者の一律救済を求める原告の要求とはかけ離れており、原告団、弁護団はこの和解案を拒否し、和解交渉は打ち切りとなりました。

この間、厚生労働省では薬害肝炎感染者のリスト放置が問題になりました。1980年以降にフィブリノゲン製剤の投与を受けてC型肝炎ウイルスに感染した患者は少なくとも1万人以上いるといわれています。いまだフィブリノゲン等によってC型肝炎に感染したことを知らない患者が全国に多数いるということになります。

私たちができること

私たち、医療従事者はいつ加害者になるかわかりません。私達の薬局では、長年薬害根絶の活動に取り組んできました。これまで肝炎の患者様の感染理由の聞き取りによって薬害患者様かどうかの調査、薬害裁判を傍聴し、原告の方や弁護士の方を招いて学習会を行ってきました。2006年には「静岡薬害訴訟を支援する会」を立ち上げました。

また現在、この訴訟の被告である田辺三菱製薬会社の薬をなるべく使わないような抗議行動（不買運動）を、患者様に迷惑をかけない形で行っていかうと考えています。皆様の、もしドラッグストアなどで薬を買う際には注意し、協力して頂けたらと思います。

これからも薬害を支援していく活動を続けていきたいと思っています。

